

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名 一般国道57号 <small>おおのたけた</small> 大野竹田道路 <small>ぶんごおおのしおおのまちたなか</small> 起終点 自：大分県豊後大野市大野町田中 <small>たけたしおおあざあいあい</small> 至：大分県竹田市大字会々	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局	延長 12.3km
事業概要 大野竹田道路は、「中九州横断道路」の一部を形成し、大分市～熊本市間の広域的な連携を図り、沿線地域の産業発展や地域活性化の支援等を目的とした事業である。			
H18年度事業化		H20年度用地着手	
H一年度都市計画決定 (H一年度変更)		H20年度工事着手	
全体事業費	約446億円	事業進捗率	71%
		供用済延長	6.3km
計画交通量	11,600～13,600台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業/事業全体)	総便益 (残事業/事業全体)
	1.1 (残事業) 2.8	85/508億円 〔事業費：70/475億円 維持管理費：16/33億円〕	236/565億円 〔走行時間短縮便益：172/428億円 走行経費減少便益：39/81億円 交通事故減少便益：26/56億円〕
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.02～1.2（交通量 ±10%） 【残事業】交通量：B/C=2.5～3.1（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.1～1.1（事業費 ±10%） 事業費：B/C=2.6～3.0（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.1～1.1（事業期間 ±20%） 事業期間：B/C=2.7～2.8（事業期間 ±20%）			
事業の効果等 ①広域交通ネットワークの形成 ・沿線各都市間の所要時間短縮や高速定時性が図られ、観光・交流促進等に貢献 ②地域産業の支援 ・輸送時間短縮により、価格の高い関東方面への出荷量増加や出荷先拡大が期待され、地域産業を支援 ③交通安全性の向上 ・線形不良箇所の回避が可能となり、交通安全性が向上 ④医療施設までのアクセス改善 ・第三次救急医療施設からの60分圏域拡大及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ⑤生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）			
関係する地方公共団体等の意見 竹田市をはじめとする3市で構成される①中九州・地域高規格道路促進期成会（会長：阿蘇市長）、中九州横断道路沿線市で構成される②豊肥・地域高規格道路促進期成会（会長：竹田市長）により早期整備の要望を受けている。（①平成28年11月、②平成28年11月）			
県の意見： 早期整備を強く望んでいるところであり、事業の継続をお願いしたい。なお、事業費については引き続きコスト縮減を図って頂きたい。			
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。			

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は大分県及び九州全体よりも多い。国道57号の交通量は増加傾向。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成18年度に事業化、用地進捗率99%、事業進捗率71%（平成28年3月末時点）

平成26年度：大野IC～朝地IC間 延長6.3km（2/2）開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

平成30年度：朝地IC～（仮称）竹田IC間 延長6.0km（2/2）開通予定

施設の構造や工法の変更等

- ・地盤改良深さの見直し 【約 17億円増】
- ・土質区分の見直し 【約 27億円増】
- ・湧水対策等の追加 【約 17億円増】
- ・工事用道路及び里道等の計画見直し 【約 9億円増】
- ・新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める

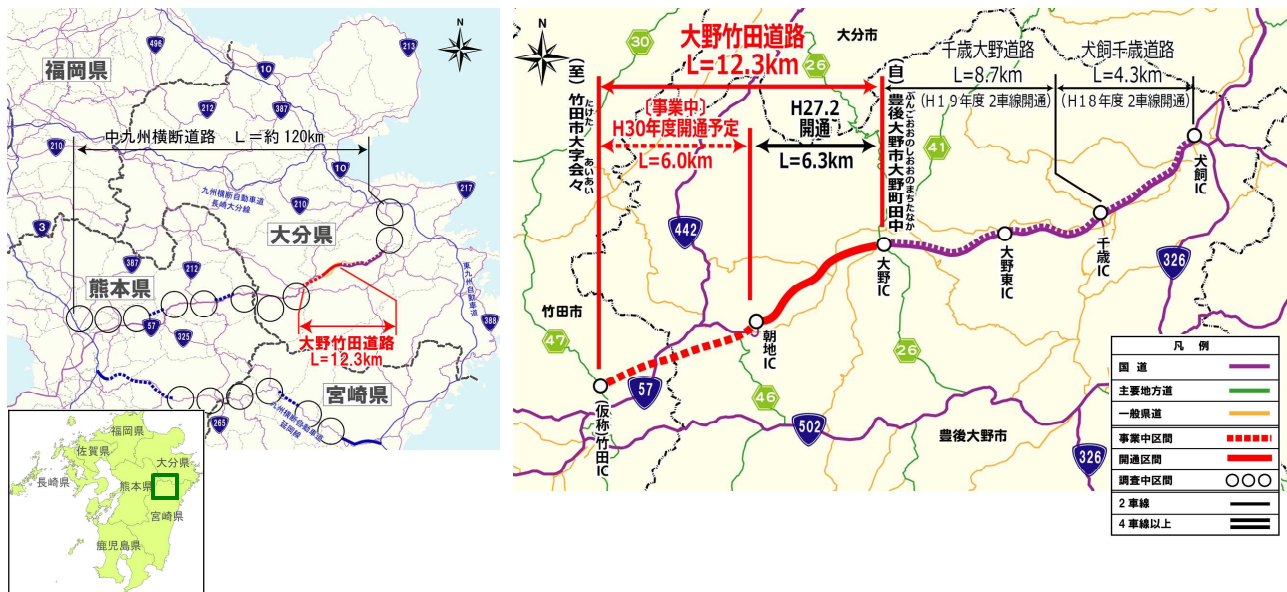
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。